

『タンゴスタ!』で生徒の意欲もアップ! 英語学習における 英単語習得の重要性



旺文社が提供している英単語マスタープログラム『タンゴスタ!』。ICT端末を利用して生徒が楽しみながら英単語を習得できる専用Webサービスで、特に単語テストの自動配信機能が先生方にも好評。サービスを積極的にご利用されている先生4名に、運用を通して実感していることや生徒の変化などについて語っていただいた。



上里 晴子 先生

東京都立調布南高等学校 英語科教諭。
East Asia Pacific E-teacher Seminar
2017 Philippine Normal Univ. 研修、
Oregon Univ. “Teaching to Teens” 研修、
N.Z. Murrays Bay School 実地研修。趣味は
折り紙とガーデニング。



毛塚 斉 先生

東洋大学附属牛久中学校高等学校 外国語科
教諭。現在教科主任を務める。國學院大学附
属栃木高等学校、法政大学文学部英文学科卒
業。大学卒業後にイギリスで1年間語学留学
を行う。帰国後、東京の私立学校に6年間勤
務後、2010年より現職。趣味はサッカー観
戦。好きなチームは浦和レッズとアーセナル。

古山 久美子 先生

福島県立安積高等学校教諭。現在英語科主
任・1年次担任。現任教8年目。東京外国語大
学卒業。第二言語習得について研究。趣味は
アニメ・漫画・ゲーム・ヨガ。まどマギ(『魔
法少女まどか☆マギカ』)はバイブルです。



平川 悟 先生

日本学園中学校高等学校 英語科教諭。英語
科主任。獨協大学外国語学部英語学科卒業。4
年間公立校で勤務後、2009年より現職。趣
味はテニス・ピアノ。大のハリウッドター
ファン。



ICT活用の始まりが 英語教育の変革につながる

—「タンゴスタ」導入のきっかけを教えてください。

平川 日本学園高校は中等部がある私立の男子校で、「タンゴスタ」を導入して3年目になります。ちょうどiPadを使った学習を予定していた時に、旺文社の方から提案がありました。導入に際して、英語以外の教科の先生からは反対意見などもあったのですが、最終的には「せっかくなのでやってみよう」と現場の意見が一致しました。

上里 新しい学習指導要領がスタートし、評価規定が大きく変わるタイミングで現場が混乱している中、GIGAスクール1期生の立ち上げも重なり、英語

科教員として1人1台端末を使った学習を始めなければならなくなりました。どうしようかと悩んでいたところ、デバイスを活用することが、学校現場で大量に使われている紙を減らす起爆剤となるかもしれないと考えました。タイミングよく営業の方から1人1台端末を使って『英単語ターゲット』シリーズを学習できると聞き、試してみたいと思いました。GIGA1期生であること、ペーパーレス化、この2つが導入した大きなきっかけです。紙を減らすことは、印刷作業が減るので、校務の軽減にもなると思いました。

古山 安積高校は進学校ですが、生徒の英語力が思うように伸びず悩んでいました。現在は高校からの募集だけなのですが、2年後には中高一貫校になる

※「タンゴスタ!」のサービス概要は本誌裏表紙の案内をご覧ください。

ので、「ここから新しく変わっていこう」という流れがあります。改革をしていく中で、「タンゴスタ」の導入に踏み切りました。

毛塚 以前は別の英単語帳を使っていて、単語学習の指導に苦戦していたところ、「タンゴスタ」の存在を知りました。「タンゴスタ」を使い始めて2年目です。現在は、授業中にテスト範囲をフラッシュカードで音読させたり、生徒が取り組みやすいようにテストの問題数を調整したり、試行錯誤しながら使っています。生徒には間違えた問題のフィードバックがすぐできるので、非常に有効に使えています。「タンゴスタ」を導入してからは、これまで作問・採点に何時間かかっていたのが簡略化されて、その時間を教材研究に使うことができています。

—「タンゴスタ」採用の決め手は何でしたか。

上里 調布南高校は、ペーパーテストからICT端末を使用したテストに移行したいと考えていました。そのタイミングで、営業の方から提案されたのがきっかけです。公立高校のため、導入するにも費用の面でハードルが高いのですが、費用面を含めて具体的なメリットを説明していただいたのが大きかったです。

古山 安積高校も公立です。都立日比谷高校に見学に行った時に、日比谷高校の先生から「タンゴスタ」を紹介していただきました。それまでは他社の英単語集を使用していたのですが、『英単語ターゲット』シリーズを使ってWeb学習ができることに驚きました。「タンゴスタ」の存在とサービスを知り、おもしろそうなのでぜひ採用したいと思いました。



▲導入までの苦勞を語り合う

ICTの導入に重要なのは 教育方針の統一

—他教科の先生から反対意見があったとお聞きしましたが、どのようにICTの導入を周りに説得されましたか。

平川 うちの学校は朝学習の習慣があり、週に3回が英語、そのほかは漢検対策などに取り組んでいます。現在「タンゴスタ」は英語の朝学習で取り入れているのですが、朝学習の中で英語だけがICTを導入することに、反対意見がありました。また、同じ英語の教員の中にも単語は書いて覚えるべきという考えの方もいて、説得するのは大変でした。でも「とりあえず1年間やらせてください」と押し切りました。ほかのICTサービスよりも、手を出しやすい費用だったことも大きいです。導入後は、朝学習の英語の小テストにかかる負担が軽減され、朝学習を担当される担任の先生方からも「導入してよかった」と言われました。

—公立校では、「タンゴスタ」を採用したいけれど費用がかけられないという意見を聞きます。どのように解決されましたか。

上里 公立校は3年間の教育費が決まっています。ここからオーバーしないように、1年毎の予算が決まられていきます。「タンゴスタ」を導入するにあたっては、年度初めに保護者に負担していただく副教材費を少し値上げしました。そこに「タンゴスタ」の予算を組み込みました。

古山 安積高校では、教科の担当になった教員が、教材を自由に選べます。その分、責任は重いのですが、私が「『タンゴスタ』を使います」と言った時、周りからの反対はなかったです。日比谷高校の先生からも、Web学習の効果を聞いていたので、迷いはなかったです。ただ、最初は生徒用のタブレットPCが揃っていなかったため、スマホで学習してもよいというルールにしていました。スマホ禁止という校則があるため、周りからは苦情を受けましたが、「タンゴスタ」がよい教材だと思ったので、「これからも使いたい」と、周りの先生方を説得していきました。

先生用機能も充実！ 学校によっては設定にハードルも？

—「タンゴスタ」は、教員がテストの配信スケジュールの設定や、成績や学習進捗の管理を行えます。学校によって管理を行う教員の人数などは異なると思いますが、操作などはスムーズでしたか。

上里 最初は私が一人ですべてを担当していて、ICT端末を使った学習は初めてだったので、苦戦しました。でも旺文社の方がスケジュールの設定方法などを教えてくれました。今はできるようになったので大丈夫ですが、教員の中には最初はWeb設定画面の操作が苦手な方もいると思います。



▲「最初は苦手だったがすぐ慣れた」と上里先生

平川 僕の場合は、ほかにも使える先生が何人かいるので全部やらなければならないというような苦しさは感じずにすみました。僕よりも若い世代の先生は、教えなくても使える人が多いので助かっています。テストのペーパーレス化によって、印刷などの手間が減ったのと紙の消費の無駄がなくなったので、メリットとしては操作を覚える手間を上回ります。

毛塚 私が担当した学年は最後にICT端末が導入された学年でしたので、先の学年がデバイスをどのように活用しているのかを見ることができました。新課程が始まり、必修単語の増加に伴い、語彙指導で新しいことをしたいと思ったタイミングで「タンゴスタ」を知ったので、導入に際してはスムーズでした。

—「タンゴスタ」による先生方の負担軽減について、もう少し詳しくお聞かせください。

平川 かなり楽になりました。うちの学校では、出欠確認後に朝学習を行うのが日課になっています。

以前の英語の朝学習では、英語科で単語テストを作成、印刷をして担任の先生に配布。その後も、表計算ソフトで生徒の成績を管理し、不合格者には放課後実施する再テストを作成していました。担任を受け持つと、採点を行う必要もありましたので、「タンゴスタ」の導入により、それらの作業がすべて不要になりました。

古山 毎週木曜日にテストをしていたのですが、採点や追試の準備などにずっと追われていたのが、「タンゴスタ」の導入で楽になりました。実は一度、テストの設定で失敗をしてしまったことがあります。100問テストなのに、合格点を100点にしてしまったのです（苦笑）。生徒から「何回受けても受からないよ」と言われました。でも、そうやって生徒も楽しみながら取り組めるのは、良かったと感じています。

平川 本校にはきちんとテストをファイリングできない生徒が多く、紙を無駄にしている罪悪感を抱いていたので、「タンゴスタ」がペーパーレスに繋がったのは良かったです。

生徒の学習意欲にも変化が！ 単語は音声で覚える時代

—生徒さんにとって身近なタブレットやスマホで学習ができる「タンゴスタ」ですが、導入してから生徒さんの学習態度に変化はありましたか。

上里 やる気のある生徒は、いくらでも自宅学習ができると感じました。アプリのようにいつでもアクセスができると、やらない生徒も出てきます。それをどう頑張らせるかが難しいですね。

平川 結局、アプリだろうがきちんと勉強をする生徒はするし、しない生徒はしないという結論になりました。次は、このツールをどうやったら使うようになるかという議論に移りました。学年によって「タンゴスタ」の取り組み方に違いはあるのですが、先生方にかかっていたテスト実施の負担が減った分、テストの方法論について意識できるようになったことは大きいと思います。

—単語を書いて覚えることを重要視されている先生も多いようですが、そのような先生には、どのように「タンゴスタ」を説明されましたか。

毛塚 以前、本校に安河内哲也先生が講演に来られたのですが、その際に「英単語を覚える1番の方法は？」とお聞きしたら、「何度も音読を下さい。1回単語を書く時間で、何度も音読することができるから」と助言されました。だから、手を動かさないという理由で「タンゴスタ」に反対する人はいなかったです。むしろ、「発音をした方が良い」という風に捉えています。

上里 先進国ではBYOD (Bring Your Own Device: 個人で所有するパソコンやスマートフォンを業務や授業で利用すること)が進んでいますよね。でも日本ではまだ紙が主流ですし、これから先も完全にはなくなれないと思っています。でもいわゆるZ世代と呼ばれている生徒の中には、書いて覚えられない生徒も出てきているんです。これからはそういった生徒にも対応していかなければならないと思います。

—BYODにするのメリットは何ですか。

上里 BYODのメリットとしては音声学習ができることが大きいと思います。「タンゴスタ」はリスニングができるのでBYODの利点を生かせるサービスだと感じています。紙ベースのテストだと、英単語を見て日本語の意味に変換することしかできない。生きた英語を話せるようになるには実際に発音していかないといけないんです。そうしないと使える英語にならないですよ。

学習指導要領が変わったのでこれからは自分の言葉で発信できないといけない。そのためには、我々もテストのあり方を変えていかないといけないと危機感を抱いています。



▲各校の使い方にも質問が飛んだ

—教える側にとっても、これまでの知識偏重型から思考型に変化する必要があるのですね。

平川 今までは音声を聞かないので、発音がまったくできないのにテストは合格する生徒が一定数いました。でも「タンゴスタ」を導入してからは、発音を聞くようになったので音とつづりをマッチさせて覚えられるようになりました。それが良かった点ですね。あと生徒も合格・不合格がすぐわかるので、昼休みに単語帳を見て勉強するようになりました。ICT化が進んで、その辺もスマートになった気がします。

—生徒さんも、日常生活の中で「タンゴスタ」を上手に取り込んでいるのですね。

古山 そうですね。この前、生徒とオープンキャンパスに出かけた時には、みんなバスの中で「タンゴスタ」に取り組んでいました。毎朝、「英検でる順パス単」の5問テストを配信していますが、すきま時間に単語学習を行えるのが効率的だと思います。先生たちと「前向きに取り組む生徒の姿を見たら、もう、『タンゴスタ』導入前には戻れないね」と言っています。

毛塚 本校では授業中にフラッシュカードに取り組んでいるので、そこで満足してしまう生徒が見られます。また、もちろん勉強はしているのですが、「タンゴスタ」を使わず、書籍の『英単語ターゲット1900』だけで学習している生徒もいます。もっと音声を聞いて発音することで、リスニングやライティング、スピーキングの能力向上にもつなげてほしいと思っています。その意図がまだ浸透しきれていないのが課題ですね。

テストの点数が高い生徒を表彰。 成功体験が向上心につながる

—「タンゴスタ」では生徒の学習状況や、テストの成績管理、学習成績ランキングの確認などが行えます。管理画面をどのように活用されていますか。

平川 「タンゴスタ」の点数が高い子を表彰しています。また、学年集会では上位10位を発表しています。テストの結果を毎回公表して、頑張っている生徒を褒めてあげたいと考えています。

上里 平川先生の考えと同じで、本校では各クラスの上位2位までを表彰しました。みんなの前で表彰

することで、自信を持たせる。海外での教育と同じように、私たち教員は生徒を褒めることに力を入れる必要があると感じています。

私の教育理念としても、できない生徒に無理やり勉強をさせるのではなく、できるようにしていくのが大事だと考えています。そのためには適度な負荷をかけつつ、成功体験などからポジティブな方向に持っていくのが不可欠と考えています。その点でも、テスト成績が可視化できる「タンゴスタ」は有用ですね。

—安積高校では、『英単語ターゲット』シリーズと、『英検でる順パス単』シリーズの両方のコンテンツがすべて使える『for ALLプラン』にされています。単語学習と英検学習のためにどのように「タンゴスタ」を使い分けられているのですか。

古山 安積高校では、高1の段階で必ず英検を受検するよう指導しています。「タンゴスタ」は『for ALLプラン』を取り入れていて、基本は『英単語ターゲット1900』から出題される小テストを中心に勉強してもらいたいと考えています。そのためには、英検対策と同じ使い方にならないように気をつけました。



▲「『for ALLプラン』は効果的だった」と語る古山先生

毎週木曜日に行う小テストでは、『英単語ターゲット1900』からの出題を50問で設定しています。合格ラインを90%にして実施後、各自で追試に取り組みます。一方、毎日5問出題される『英検でる順パス単』は、合格ラインを100%に設定しており、それぞれの目標級のクラス(1級から準2級)別に配信しています。合格できなかったら追試になります。英検に必要な単語は、必ず習得することを目指しています。さらに月末の最終日には、「修了テスト」という

形で100問の問題を解きます。こちらも合格できないと追試があります。少し予算を足せば、『英単語ターゲット』シリーズだけではなく『英検でる順パス単』シリーズも学習ができるのでお得だと感じました。学校の校訓が自主性に任せるという姿勢だったので、これまで英検の受検は強制していませんでした。そのため、生徒もあまり自発的には受けていませんでした。でも、せっかく『for ALLプラン』を利用したのだから、英検合格を目標設定にしました。生徒も積極的に取り組んでいるので、導入してよかったと思っています。

—今後も、英検の重要性は高まっていくのでしょうか。

毛塚 本校では、学校を挙げて「校内英検の日」を設け、生徒に積極的な受検を奨励しています。各種大学入試で英検の重要性が高まっているので、生徒は英検対策に必死に取り組んでいます。

平川 日本学園は、2026年度に明治大学の附属校になるのに伴って、推薦要件に英検が必須となりました。英検の準会場にもなっているので、目標級に達成するまで受けるという姿勢です。受検の申し込みから、当日の運営も英語科の教員が仕切っています。そのため、英検の1次試験に合格した生徒には、2次試験の面接もマンツーマンで指導しています。

問題の出題方式も選べる「タンゴスタ」。 使い方は各校さまざま

—安積高校での実例をお聞きしましたが、普段の授業の中で、「タンゴスタ」をどのように取り入れられていますか。

毛塚 本校では『英単語ターゲット1900』を使って毎週金曜日に100語の範囲から20問出題しています。テストでは、「例文穴埋め4択」を出題しています。今は毎日のスケジュールに「タンゴスタ」が組み込まれており、毎朝8時に小テストが配信されるようになっています。授業中には、フラッシュカードを使った音読もしています。

以前は書き取りを出題していましたが、難しすぎたのか平均が1点や2点でした。これでは意味がないかもしれないと思い、まずはしっかり英単語を読むところから始めようと考え、4択問題を取り入れま

した。4択の方が、効率よく単語を覚えられているようです。



▲「発音も試せるのが強み」と毛塚先生

平川 「タンゴスタ」を取り入れているのは全学年共通なのですが、運用は各学年の教員に任されています。3年生は「やる子は積極的に取り組む」というスタンスで、朝学習だけではなく、夏休み期間も配信していました。私が担当している学年では、朝学習だけで使用しており、配信しているのだから必ず取り組んでほしいという先生が多く、各生徒のフォローにも積極的です。同じ学校とは思えないくらい、学年で特色が出ています。

上里 授業の冒頭5分間を使って学習しています。調布南高校は中堅校なので、生徒の学力から考えて問題数を設定しています。1年目だった昨年は『英単語ターゲット1200』から60問、今年は『英単語ターゲット1900』から50問を出題しています。昨年の合格率は9割に設定していたのですが、なかなか合格ができないと生徒にとってストレスになると感じ、合格率を7~8割に下げました。合格率を下げることによって、「タンゴスタ」に取り組みやすくなりました。結果的には、生徒のモチベーションを上げるの



▲「タンゴスタ」に取り組む様子

に繋がっています。今、リスニング問題は休止していますが、色々として行錯誤をしながら使っています。

学習指導要領の改訂と 学習評価への対応

— 学習指導要領の改訂が話題に上がっていますが、「タンゴスタ」を学習評価にどのように組み込まれていますか。

上里 ICT端末を使った学習は、最初は生徒の食いつきが良いのですが、だんだんと慣れてきて利用が滞りがちです。「タンゴスタ」はできる限り、すべての生徒に活用してもらいたと思っています。そのために、英語科としてどのように評価をつけるのか、明確に生徒に説明をしました。これまでは定期テストの結果が大きなウエイトを占める学校が多かったと思います。でも新しい学習指導要領になってからは、評価の観点が増えたので、これまで定期テストだけ頑張っていた生徒も、日ごろからコツコツとやらざるを得ない環境になったといえます。

平川 本校では「タンゴスタ」での学習範囲を定期テストの範囲に含んでいるのですが、学習評価には入れていません。あくまで「タンゴスタ」は朝学習の一環と捉えています。そこから、英語力アップにつながってほしいと考えています。勉強の習慣づけのために朝学習を始めたので、試験に合格する体験をさせることが目標でした。だから学習評価に組み込むのは難しいと考えています。生徒の学習管理を目的としているので、成績とは連動させない方針です。

上里 学習評価の三観点をどのように評価すれば良いのか、現場の教員はみんな悩んでいました。ペーパーテストは、いわば知識技能を測るテストです。文法や語彙の問題が非常に高いウエイトを占めていました。個人的な意見ですが、ペーパーテストでは、どうしても思考力を測るのは難しいと思います。その中で、「タンゴスタ」をうまく評価に取り入れていきたいと考えています。本校では、「タンゴスタ」を頑張った生徒は、学習評価と合わせて学力も上がりましたね。



▲ 学習評価について議論が飛び交う

—タブレットやスマホを使った学習は、生徒さんに習慣として身に付いていますか。

平川 試験前に単語帳を開くことがなかった生徒も、空き時間にスマホで学習できるので、以前よりも単語に触れている時間は長くなっている気がします。これまでは、試験の中でも単語問題の対策は後回しになっていたのですが、「タンゴスタ」で勉強をすれば点数が取れるとわかったので頑張るようになってきました。

古山 最初はスマホを使って学習を開始したのもあって、水泳大会のプールサイドで取り組んだりしていました。手軽にできる分、生徒が楽しんで学んでいますね。

反復学習の重要性と 熟語学習の方法

—一度覚えた単語を定着させるために、工夫されていることはありますか。

古山 うちの学校では1年かけて、すべての単語を3周することを目指しています。そのため1周目には生徒が解きやすい選択問題をやらせています。2周目からは例文問題が出るようになって、3周目でやっとつづりを覚えるといったように少しずつハードルを上げています。最初から難易度を高くして、生徒が使うのに抵抗を覚えてしまった反省から、今はこのやり方で指導しています。ただみなさんのお話をお聞きしていると、色々と変えてみようかと思いました。

—英語の要ともいえる熟語ですが、どのように教えておられますか。

毛塚 『英熟語ターゲット1000』(旺文社)を採用しているので、『スタディコネクト*』を使ってテストを行い、週に1回、50語の範囲から20問を出題しています。定期テストにも出題し、定着を図っています。

平川 「タンゴスタ」と合わせて、熟語は『スクランブル英文法・語法』(旺文社)を授業に取り入れています。単語は朝学習で、熟語は授業で行うので、紙にこだわっている先生もこのやり方なら納得しているみたいです。

古山 まだ1年生なので、熟語まで手が回ってなくて…。基本は『英単語ターゲット1900』に出てきた単語と、教科書を中心に学んでいます。

—「タンゴスタ」を導入された後に、生徒さんの成績に変化は見られましたか？

毛塚 昨年度、高校1年生を担当したのですが、英検準2級の合格者数は過去と比べて1番多かったです。「タンゴスタ」をしっかり使った成果が表れたのかなと思います。

上里 中堅校ですが、これまではあまり積極的に英検を受検していませんでした。昨年度、1年生の全生徒に英検準2級を受検させたのですが、一次試験の合格率が87%でした。私は7割くらいと想定していたので、それを上回る結果でした。

「ターゲットパーティーを始めるよ」 声かけ一つで楽しい英語学習に

—「タンゴスタ」の導入は、生徒さんのモチベーションの向上や、英検の勉強に効果があるとお聞きました。ICT学習を続けていく中で、取り組みを促すための工夫はされていますか。

古山 進学校なので、基本的には全員が大学受験をするのですが、3年生になった時に英語が苦にならないような単語力を身に付けてもらいたいと思っています。その上で、なるべく楽しい雰囲気の中で勉強してほしい。だから、「タンゴスタ」でテストをする時は「ターゲットパーティーを始めるよ」と声かけをして、音楽を流しながら取り組んでいます。生徒もノリノリでやってくれていますね。

平川 「パーティー」という表現はすごく良いなと感じました。うちは不合格の場合、「ペナルティシー

*「スタディコネクト」は、クラウド型テスト問題作成プログラム。テストの作成から共有、保存、管理まで全てウェブ上で行える。旺文社の学習参考書採用特典として提供。

ト」と呼ぶものに、生徒が苦しんで取り組んでいる雰囲気があります。言い方は大事だなと感じました。

古山 安積高校では、「タンゴスタ」に楽しんで取り組んでもらうのを第一にしています。だから生徒には、「10問あったら、3問だけでも良いから正解するようにしなさい」、「1回で合格ができなくてもいいよ」と言っています。3年生になった時に受験対策ができることが目標なので、その過程で私たちを助けてくれるツールだと思っています。



▲「もっと積極的に取り組めるようにしたい」と平川先生

一言語学習において大切にされていることや目標などをお聞かせください。

上里 ボキャブラリーは、言語学習で一番大事な部分だと考えています。だからこそ長い間、どの学校でも共通で英単語のテストが行われています。例えば、世界の人たちとオンラインゲームで交流している時に、「タンゴスタ」で学んだ単語を使ってチャットができれば素敵ですね。生徒が本当の意味でコミュニケーションできるようになるのが目標ですね。

平川 確かに単語力さえあれば、ネイティブの先生とも話すことができます。反対に、単語力がなければ何もできない…。英語の勉強の土台だと思うので、前向きに覚えていってほしいです。

毛塚 自分の子どもを見ていると、まず耳で聞いた言葉を声に出していくようになり、次に読めるようになって、書けるようになっていきました。だからこそ、単語の音を聞いて、しっかり発音ができるようになることが、自然な言語学習の第一歩だと思います。そのためには単語帳とは違って、音声も確認できる「タンゴスタ」を徹底的に使いこなしてほしいと思っています。



▲これからの目標に共感し合う

—最後に、「タンゴスタ」に加えてほしい機能はありますか。

毛塚 ディクテーションができるようになるのもっと使いやすくなると思います。単語を聞いてその意味を選ぶだけだと、その単語を知っているかどうかで完結してしまいます。やはり、リスニング能力を向上させるにはディクテーションが不可欠です。また、その機能を使えばシャドーイングもできると思うので、是非ご検討をお願いしたいです。

古山 『英熟語ターゲット1000』も「タンゴスタ」に導入されたら良いなと思っています。

平川 座談会の中で何度か発音の大切さが話題に上がりました。また、これまでも、生徒がきちんと単語を読んでいるかわからないという声が上がっていました。「タンゴスタ」で、生徒が正しい発音で読めているかがわかると、より効果的だと思います。

3時間にもわたる座談会でしたが、英語学習を中心に、学習指導要領の改訂や学習評価、英検、リスニングなど話題が尽きませんでした。楽しみながら単語力を身に付けられる「タンゴスタ」。変わりゆく教育の中で、生徒さんに寄り添ったサービスが重要になってくると感じさせられる座談会でした。